

連載・問わず語り／⑦

時代小説 と男性

司馬遼太郎
え・中・西・勝

私自身、女性に濃厚な興味をもつてゐるのだが、面白さにかけては、同性の男という生きもののほうが、はるかに面白い。誤解して頂いてはこまる。べつに変な趣味はないのだから。

時代小説というのは、一にも二にも男の魅力、悲しさ、おかしみをえがく小説だが、私自身、そういう理由をこえて、男を見物するのがかぎりなく楽しい。

もつとも、男のなかでも、ちかごろ団地アパートにすんでゐる男たちのように、

「女房を幸福にすることだけが自分の一生であります」というようなのは、私にとってまったく魅力はない。

男という生きものが、その特質のもつともおもしろい部分を発揮するときは、かれが野望に燃えたときだ。権力慾、榮達慾、求道慾（ぐどう）、復讐慾、攻撃慾に燃えたときである。その行動がきわめてダイナミックになり、美しさも醜さもいきいきと出てくる。こういう男をえがく為にはやはりこんなにちの舞台ではまずい。一時代前の「歴史」を舞台にしなければ大きく動いてくれないのである。

しかも、変動期でなければならない。戦国時代とか、幕末とか、そういう舞台がいい。そういう時代にこそ、男のアクをふんだんにもつた男が時代の主流に出てくるわけで泰平の世ではだめである。幕末の長州藩をほとんど一人でかきまわした高杉晋作は、明治維新の寸前、結核が高（こう）じて死んだが、こういう男が安定期にうまれておれば、親族でもてあましの極道者としての一生しか送れなかつたろう。

高杉が京都にいたころ、將軍家茂が上洛して二条城に入ろうとした。幕威がようやく衰えたとはいえ天下の征夷大将軍の行列である行列は威厳と贋美（ぜいび）をきわめたものであり、往来の両側では市民が土下座をして頭をあげない。

そのとき、たまたま通りかかった高杉晋作が、土下座のうしろふところ手をして立ちはだかり、芝居の大向うから役者の名でもよぶように、「いよいよ、征夷大将軍」と声をかけた。

將軍供奉（ぐぶ）の旗本連中も見物の市民もまつさをになつたが、さがした時はもう高杉の姿はその邊になかつた。秩序や権威に対するまつこうからの侮辱をやつてのけたわけだが、

こういう男でなければ時代小説に登場するほどの資格はないのである。

幕末の風雲もいよいよ急になってきたころ、京都の市中に、「土佐の豪傑坂本竜馬（りょうま）が三千の兵をひきいて京都にやってくる」といううわさがひろまつた。むろんデマで、竜馬はたつた一人で京都に入ってきた。

新選組、見廻組の猛者が、ツカをたたいて竜馬をたずねまわつたが、べつに逃げもかくれもせず河原町の旅宿で恋人と一緒にとまつていた。

恋人というのは伏見の寺田屋の養女でお竜さんという娘だった。評判の美人で、才氣があつたが、針仕事や洗たくは大きらいだつたといふ。竜馬は、新選組などは眼中におかすこの女性と手をつないで河原町筋を歩いたというから、度胸のよさもここまで来れば無茶といつていい。

そのころ、薩摩藩に中村半次郎（のちの桐野利秋）という男がいて竜馬に、

「すこし遠慮をしたほうがよくはないか」といったほどだった。

ついでながらこの半次郎という男は自源（じげん）流の達人で、新選組の連中も、

「薩の中村とはすれちがうな」

といったほどであった。自源流はもともと抜刀術（居合）が技術の骨になつており、それがいざまに斬る。斬れば、惨鼻眼をおおうような斬口になるのが、この流儀の特徴であった。

しかしいくら抜刀術でも歩きながらは斬れない。ちよつととまり腰をきめてから斬る。ところが、中村半次郎という男はどういう工夫があつたのか、歩きながら斬つた。このために新選組でさえ用心したのである。

半次郎は、文字が読めなかつた。他藩に使いに行つても、相手の藩のことを、

「弊（へい）藩は」

などとまちがつていう。自分の藩は、

「貴藩」



62.
MORIYU
MORIYU

である。

同行の人はいつも汗をかいたという。帰路、それを訂正すると、べつに怒りもせず、

「左様か左様か。これは大そうな学問をした。自分の藩のことは弊藩でごわすな。なるほどそういえば屁はシモから出もす。屁藩とおぼえておけばよろしうごわすな」

と大笑いした。こういうことだわらなくて愛嬌のある男だから西郷も可愛がり、同藩の士もみなかれを愛した。親分かたぎな男で、人に信頼される男だつたから、育ちは低かつたが自然と藩中で重きをなすようになつた。

と自負していたという。

中村は明治になつてから日本最初の陸軍少将（中将はなかつた。大将は西郷隆盛一人である）になつたが、西郷の政界隠退とともに東京を去つて薩摩に帰り、西南戦争で戦死した。大そうなおしゃれで、陣営にある時もフランスの香水をぶんぶんさせていたという。変動期に登場する英雄というのは、平時には暮らせないような男で、みなケタがはずれている。はずれた部分から男そのものがむき出しになつていて。時代小説というのは、そういうむき出しの部分を書く小説なのだ。

もちろん、かれらは狂人ではない。どの男にもかれらのその部分をもつているのだが、かれらがたまたま男性というものを代表して変動の時代にその部分をむきだしにしてみせてくれるだけのことである。

いまも、かれらはいる。いることはいるが、その部分をねむらせ
てくらしているのだ。本質は豹であっても自分を猫だと思い、人に
もそう思われて暮しているだけのことである。泰平の時代では、男
は、女房子供を安楽に食わせることだけが機能だし、女たちが男に
要求するモラルも、そこに集中している。団地で女房にこきつかわ
れながらセンタクをしている亭主どもをみよ。かれらは乱世になれ
ばあるいは豹になるかもしれない男なのだが、世はこそって男ども
に猫になることを命じている。やむなく、日曜日には、女房子供を
つれて、ピクニックなどに出かけている。男というものは、なんと
かわゆくてあわれではかない生きものではないか、女性諸君。

新栗のマロングラッセをどうぞ

マロングラッセは ヒロタの銘菓

世界中のからほめられた
日本の誇り 神戸のほまれ

元町通三丁目 TEL (3) 二三四〇番



金 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 (4) 0693
大阪・高麗橋二丁目 (2) 2106

ハイセンスで
えらぶ
秋のおくりもの



元町2丁目

■電話番号が変りました

TEL ③ 4707・4708



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ



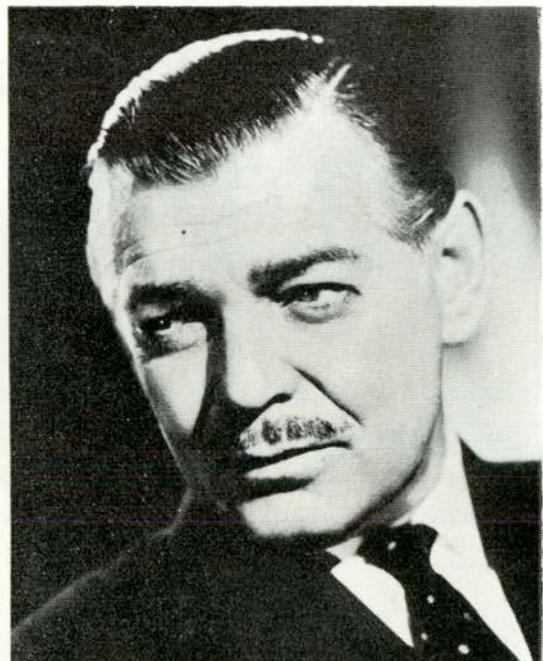
紳士服飾 / 大丸前③-3900
婦人服飾 / 大丸前③-1695
婦人服飾 / 三宮センター街③-6114

16

眼がおちくぼみ、頬がこけ、細い身体の持主。シャガガレ声で、口の中에서도異なる独特な唇の動き、どこからみても若々しい魅力というものを感じさせられないのに、彼がしゃべり動き、静止すると、惹き入れられるような青白い光を放つ。そして何か得態の知れない魅力の虜にさせられてしまふ——それが森雅之です。

何年か前知人から貰った切符で「挽歌」という映画を観に行つた（ロハであるというだけで……）ところがそれがキッカケで私は三度お金を出して、「挽歌」を観るハメになつたのだから、いい気なものです。理由はカンタン。森雅之を観るためにだけ……。

あの骨と皮だけの細い体で一体何を考えているのか分らないようなしかも激しい何かを秘めた遠い



私の好きなスター

森 雅 之

クラーク・ゲイブル

花 柳 芳恵似子

まなざし……に私はすつかりスクリーンに引きずり込まれてしましました。もちろん彼がイヤゴー役で出演した「オセロ」は真っ先にかけつけました。

「風と共に去りぬ」のレッド・パトラー。一応女性ならこの小説の主人公である彼に、お熱をあげない者はいないのではないかしら？

それが全く実在の人であるが如く私の目の前に現われたのが、いまは亡きゲイブルだったのです。ロハがつしりした肩、真っ黒い髪と口ヒゲ。少しいたづらっぽい感じの黒い瞳。真っ白い歯。力強いサビの効いたバリトン。自信に満ちたその足どり——すべてかたくましく、ブンブンと体臭の匂つてきそうな（それでいて清潔な）男性的魅力にあふれた彼！

この二人は、実に対象的ですが之を観るためにだけ……。

この二人の他に好きなスターは

私は何故か共通した“ある男性”を感じるのです。

一人は深く沈んだ湖の底から青白く光つてくるような智的な冷い感動。いま一人は活動する火山のように激しい熱い赤い閃光。それは全く別々のもののようなのに、ある瞬間、お互に逆なものを感じるのです。冷めたく静かな方に、赤い熱い熱を！——激しい情熱的な方に、深い智性と冷静な理性を！——。どこからひつくり返してみても一人とも、隅々まで男性的だということが共通している——という意外な発見だったのです。

この二人の他に好きなスターは

メル・ファーラ、女性では越路吹雪、寿美花代、江利チエミと數えあげるときりがないのです。

（邦舞家）

神戸だからえがく夢 No.11

底抜けにユカイなみんなの<みなと祭>

文・藤本義一
え・佐々木侃司



ミナトマツリもこなうるとモオシロインだが

『編集長 スンマセンみなとまつりの取材はアンマリおもろうてついワレワレもいっしょになって……はあ……どうも。取材をわすれてまつりを楽しんだのでなんともはあ……ビールがうまくてつい……』

カッカーツ!!

『編集長はアタマにきた。みなとまつりの取材は失敗!!』

『とんだ新聞記者どもだ。』

また「みんなと祭」がやってくるなきないお祭りさ。ちょうど一年まえ、これについてこの欄へ小気味よく書いて溜飲をさげたと思つたら、わさびのきいたところはパツサリと編集部のほうで削つてしまいやがつた。今年はおとなしくやらかすから、どうか全文のせていただきたい。

私は阿波おどりが好きだ。大阪や神戸からでも観光客は見にいくんじやなくして、踊りにいく——

へ踊るあほうに見るあほう

同じあほうなら踊らにやそん

そんこの合理性こそ、お祭りの本質をついていはでないか。日本でも農村へいけば、盆踊りはみんなが踊るもの。ふちでボカント見てるようなヌケたのはいない。パリ祭でも映画で見たらみんな踊つている。社交ダンスなんかでもそうだ。あんなもの、見てるほどバカなことはない。やつてこそはじめてももしろいのだ。私たまつりなんてものは、もともとみんなのものなんだ。神戸市が見せてやろう、まあ見ておくれじゃない。市民が、さあ見物にいこうじゃない。おまつりなんだ。私たちみんなのものなんだ。みんなが腕を組むもの、みんなが歌うものみんなが手をうち、合の手を入れゆび笛を吹くものなのだ。

ではどうしたらしいのか。例によつて夢をえがかせていただくとしよう。懐古行列よし、国際大行進よし、海上ちょうちん巡航またよし、これらはこれまで勝手知つた人たちにまかしておいて、活気があふれたたちは、ちがつた新しいアイデアの催しを生み出すの

だ。たとえば去年までやつていた広

告自動車行例に眼を向ける。スポンサーが宣伝カラーラックをめいに飾りつけて百台くらい、列をつくつて走つたのだが、これも愛想のないものだ。今年はとりやめになった。これをもうひとひねりする。

スポンサーには大型トラックを用意してもらう。周囲には商品名をデッカく書けばよい。しかし荷台はガランとさせておく。ここへつきのようなグループを一つずつ

せるのだ。または街の広場にマイクとスピーカーをつけてもらう（宣伝カーをそばに置いてたら拡声装置はそれでOKだ）または簡単な飾りつけをしてもらう、などなど。

美術団体＝二紀会神戸支部。音楽団体＝中央合唱団。演劇＝道化座バレ＝島村好子研究所。服飾＝神戸ドレメ。詩「蜘蛛」のグループ。商業美術＝神宣美。そのほか人形劇団あり、童話グループあり奇術の集団ありといふ具合に、神戸の街に趣味のアマチュアグループはゴマンとある。もちろん音楽だけでいつても職場人合唱団だけで二十ほどもあれば、マンドリン同好会もあり、歌謡曲研究所ありといふわけだから、芸術グループ全体でなら二百や三百は軽く突破する。（何なら私が名簿をお見せしようか）ここに参加を求めて、あるものはトラックに乗つてもらう。あるものは街角に陣どつてもらう。あるものは歩いて街を流してもらう。すべて先様（出演者）のご希望にしたがうのである

ンドがトラックでゆつくり移動していく。元町マスヤの前ではドレ

メの生徒がフツツンシヨウをやつていた。三宮神社の境内では道化座がショート・コメデーを開演中だ。市役所の前ではバレーの花が咲いている。生田神社では合唱団が外国民謡や日本民謡を力いっぽい歌つてている。元町カネボウのあたりでは詩人たちが詩の朗読をやつていた。絵かきは商品のオーナー（せり市）をやつたり野外展をひらいたり——すべては青空の下で、集つた人も拍手をしてやりをとばしたりの連帯意識

これらをあちこち楽しんでまわるのだが、ちょうど子供たちが地蔵盆でそら豆やお菓子をもらいに歩きまわるのと似ている。おとなも子供にかかるようなウキウキした一日、あるいは二日。これが私たちのまつりのアイデアのなかのひとつ。紙数がつきたから今号はこれまでオシマイとなつた。つけ加えておくと、これを開く地区は、東は市電税関線、北は元町本通り、西は三越まで、南は旧居留地一帯を含めて中突堤までの海岸通の線に囲まれたなかといふことにすればよい。しいて入れるなら、これに加えて湊川神社、多聞通、新開地、湊川公園までのばしてもよい。

スポンサーとアマチュア（なかには道化座の様なプロもあるが）団体との提携というのも、うまくいけばおもしろい在り方だと自負している。みなと祭実行委員会が世話をやいてくれて、そんなグループがみんな、一丁のつてくれる」と年に一度が待ち遠しいんだがな（ともに寿屋宣伝部勤務）

すてきなお嬢さん こんにちわ！

きく人・岡 部 伊 都 子

話す人・山 根 美 恵 子
(大丸神戸店顧客課勤務)

野のはな対談というのはね、わたしたちが生きている

人生を野とすれば、各人の個性に応じて花を咲かせていくわけでしょう。そういう意味で、何處で、どんな人たちは、どのようにしてそのすてきな『花』を咲かせていらっしゃるのだろう——かということをいろんなお嬢さんたちと会ってお話しをしてみたいと思いまして……。

(岡部)

自分を充実させるために通った定時制高校

岡部 「山根さんは、おいくつぐらいの時に今の職場にお入りになりましたの」

山根 「中学を卒業してすぐですから十六才の時です。

だからもうお勤めして大分になります」

岡部 「お勤めなさりながら定時制高校を出られたそう

ですけど、その四年間にはずい分とご苦労も多かつたでしょうね。何に一番、気を使かわれました？」

山根 「そうですね、その頃事務関係の仕事だったもので、残業などで登校時間の遅れることがありました。最終の四時限に行つたこともありました。でもわずかな時間でもお友達と話し合えることがとても魅力で、いくら遅くなつても休まず通いましたが、やはり遅刻ということがツラかったわ」

岡部 「そうでしょうね。でも四年間を無事に通学なさることができたということは、よほど職場での理解がな

ければできないことね。その点、貴女の場合はたくさん

の方が理解し、協力して下さったわけね」

山根 「ええ、とても感謝します。試験の時などは早く帰えりなさいって下さるんですよ。でもお勤めしている以上は会社のことが第一ですからね、勉強はその次、というふうに心がけていた積りです」

岡部 「高校を卒業なさることができた時はうれしかったでしょうね。ところで、よく投書などでね、就職の時定時制が優遇されないとか、差別されるとかいったことを読んだりするんだけど、四年間定時制の高校にはいつてらした一人の経験者としてね、どういったことに憤りをおもちになります？」

山根 「大会社の一つの協定として夜学生は採用しないということが入つてるそうですが、そのことに憤慨を感じるんです。生意気いうようだけど……。でもそうした協定も私たち夜学を出た者がしつかりやつていけば、自然みなさまに見直していただけるんじゃないかと、思っています。私がうれしかったのは、何かの折りに賞めていただけ『やはり学校を出たからだろ』っておっしゃつて下さった時で、努力しただけのことはあったと喜んで

山根 「それはよかったですわね」

あまり気にならず、むしろ自分の教養をたかめるために

—という考え方でおやりになつてれば周囲の方もその努

力を認めて下さると思うんですよ」

山根 「わあ、大へんだわ（笑）」

岡部 「つまり資格をとるためにやるのでなく、ご自分

を充実させるためにやるんだ—ということね。それがな

ければやはり恨み心もよけいに起つてきますしね。

だから、ただ自分の充実のためと思って、一生懸命お

仕事に励んで下されば、定時制というものに対する認識

も違つてくるだらうというご意見ね」

山根 「ええ、そうなんですね」

岡部 「雇用主側の考え方の方はもちろん、一般人ももつと認識をあらためないといけないけれどこれは山根さんが一日一日を自分で歩ゆまれただけにとても貴重なご意見ですね」

お勤めのはなし

岡部 「大丸にはよく行くのですが、いつも頬をあかくして非常にさわやかにお客さまと応待してらっしゃるの

を感じて拝見してゐるんですよ」

山根 「顧客課以外のポストの経験は？」

岡部 「入社早々はエレベータでした。翌年にエスカレータができすぐそちらに配属され、そのあと一年ほど事務に入りました」

岡部 「いかが、エレベータやエスカレータを受けるもつてられた時などは、ずい分と嬉しかったことや、不愉快なお客さんに出会つたことがおありでしょ」

山根 「入った次の年だったかしら……、すごくうれしことがあつたんですよ。たくさん荷物をおもちの方の子供さんの靴ヒモが、ほどけていたので『結んであげましょね』って結んであげたのです。そうしたら、そのお母さまがそれがよかつたとおっしゃって賛めて下さつたんですが、そのことはささいな出来事だったのですがとてももうれしくて印象に残つてます。ほんとにチヨットとしたことに喜んでいただけたことが、私自身の励みになりましたわ」

岡部 「そうね、ただおこる時だけ卒直に感情を出すのではなく、うれしい時も卒直に感情を出さなくてはいけませんね」

山根 「ええ、叱られたこともあるんですよ。新米でまだ融通のきかなかつた頃、地下からは乗つてはいけないというので男の方に『ここからはダメです』つていつたらその方に『何が乗つていけないのだ。君の名は何んていうのだ。うて行くから!』つてすごく叱られたんですね。もう驚ろきで『すみません／＼』と平あやまりしましたが……（笑）あの時は悲しくて泣いちゃいました。純情だったのかしら（笑）」

岡部 「いまは受け付にいらして、たくさんの方を見てらっしゃるけど、どう？すてきな紳士もあれば（笑）つきあいたくないような方もいるでしうが（笑）何か心に残るような方といった印象はございません」

山根 「そうですね、何か感激するようなことでもあれば別だけど（笑）やはり仕事となりますと自分の感情は入れないものですから……。惚れ惚れするような人を見て『いいなあ』なんて思つていたら人数が数えられませ



（右より岡部伊都子さんと山根さん）

んもの（笑）」

岡部 「あら、毎日、入店者の数を数えてられるの？」

山根 「ええ、日曜だと七万位、平日で四万ですよ」

岡部 「わあ、すごいですね。それだけの人を数えてい

らるるとは——」

山根 「はい、ただご案内の応待してるだけではなく、そ

れをやつてるんですよ（笑）」

岡部 「じゃ、私も『こんにちわ』っていう度にそろし

て数えられるわけね（笑）」

山根 「最初は、クセですか、電車に乗ってて、人の顔

を見ると自然手が動いてるんですね（笑）あわててひつ

こめたりしたことがありましたわ（笑）」

岡部 「デパートは小さいお子さんの迷い子が多いでし

ょうね」

山根 「多いですね。私は子供が好きだから、アヤス方

の係りを引き受けるんですよ。やはりワワワ泣かれる

のがツライわ。お母さまには、お子さまが六才位にな

れば一応自分の名と住所がいえるくらいのしつけをなさ

つていただけたらと思いますわ」

岡部 「ほんと、それは大切だわね」

点訳・声の録音に張り切る山根さん

岡部 「山根さんは、どうした時が一番ホットなさる」

山根 「会社が終って、自分のやりたいことに突撃した

時でしょうか（笑）」

岡部 「そのやりたいことって何んでしょう（笑）」

山根 「それは、ナイショなんです（笑）」

岡部 「何か他にお仕事なさってるの？」

山根 「ええ、点訳の仕事と声の図書館といつて録音の

仕事も始めているのです」

岡部 「なかなか根気のいるお仕事だから、大へんでし

ょう」

山根 「ええ、一日に一頁いくのがやっとですね。私の店で神戸市立盲学校の生徒さんたちが作った粘土細工の展示会を見て、あの人たちの力強さに感激し、何か私でお役に立つことがないかーと、日赤を通じ点訳のお仕事

を手伝うことになつたんです」

岡部 「それはとてもいいお話ですね。いろんなところ

でたくさんの方々が点訳奉仕をして下さっていますが、

山根さんも、がんばって下さいね。

山根さんは、結婚についてはどう考えてらっしゃる

山根 「いまはそうした仕事をもつてるものだから……」

岡部 「でも結婚なすつてもやれるお仕事でしょ」

山根 「私って、何んでも夢中になるタチだから、もし

結婚してご主人にほつとうして何もできなくなつたら困

ります（笑）」

岡部 「そりや、当分はお互にほつとうするでしょ

けど（笑）そのほつとうの中から次に何か新らしいもの

を二人でいるのだから力づけあっていけば、一層よい仕

事ができるのじやないかしら？。共稼ぎはなさる？」

山根 「ええ、自分がこの人と想つた相手なら、いくら

苦労してもいいと思います。子供が生まれる迄はお勤め

を続けたいですね」

岡部 「赤ちゃんができてからも、お勤めができるよう

なシステムになれば……と思われない？」

山根 「もちろんそうなればうれしいですね」

（担当・文責＝五十嵐）



Fashion

VIENNALINE

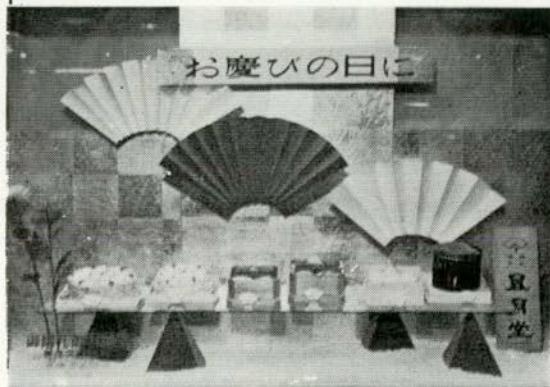
世界のめがねがやって來た

神戸眼鏡院

元町 3・電③3112-3・0551(貿易部)

FUGETSUDO

秋の
ご婚礼



ウエディングケーキ
クッキー
紅白饅頭
引菓子
ゴーフル
コウベビア
ブティーゴーフル

創業 明治三十年

風月堂

神戸・元町三 TEL. 神戸 ③ 695・696

里親制度に愛の手を

ゲスト

桧 前 敏 彦 (神戸市民生局長)

八馬 琢也 (神戸青年会議所理事長)

佐 川 俊 合 (神戸青年会議所会員)

田 督 (三英物産K・K社長)

八馬 汽船取締役)

家庭愛に恵まれぬ

子たちに愛の手を……。

八馬 今年の青年会議所の社会奉仕の方針は、青少年の不良化防止ということを第一にとりあげています。

そのためには具体的にどうすればいいのだろうか」と福祉委員会の佐川君らと研究し、去年は一日里親を行ない、今年は例の四月六日にJCのアジア大会があり、その一環に宝塚観劇があつたのですが、これに神戸の施設の女子高生約百二十人を招待したんですが、とても喜ばれました。この時、施設の子供たちは家庭的な愛情に飢えてるんだなと痛感したのですが、そうした施設の子供たちのために私たちJCはどうしたことと具体的にしてあげればいいのか。この

機会に民生局長さんからもぜひサゼッションをいただければ――

佐川 私たち社会奉仕の仕事は、教育青少年というのと、いわゆる社会福祉というこの二つがあるんですが、範囲が広く、どこから手をつけていいのか。分からぬ

ような仕事なんですね。

今年は理事長が非少年不良化防

止という方針を大きく打出されて

ますので、JCとしては、OAA

(兵庫県青少年野外活動協議会)

について中小企業に働く青少年の不

良化防止という目的で作られたと

いふことですがこのOAAを私たち

はいま積極的に応援しつつある

のです。その他に一日里親などいろいろ計画しています。

八馬 不良化防止といつても、難かしいお説教をしても始まりませぬので、むしろ「楽しみ」を与えて

ることの方が大切でしょうね。

局長 そういう意味では、JCの方たちが時々なさつての施設の子供をレクリエーションに宝塚へ招待したり、慰問されることは直

接、間接的に青少年の非行化防止に大いに役立つてますよ。

合田 そのほか、まだまだ私たち

JCが、積極的にやらねばいけない仕事は?

局長 児童相談所で非行のケース

をみてみますと家庭環境のよくな

い子供に非行化するケースが大へ

ん多いですね。非行化した子供は

もちろんですが、同じ環境にあつ

て、やがては非行化しそうだ――

という子供たちを早い目に養護施

設に入れてやれば非行少年の数はうんと減るのではと思うんですが

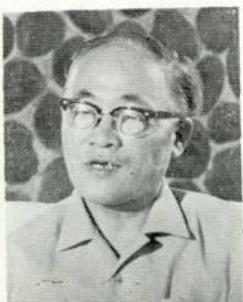
私は就任以来、児童福祉につい

て対策を考え、一番先に強調し

たことは児童相談所の強補です。当時、児童相談所は二十ほどでしたね。いまはその倍近い数です。

佐川 そうした施設の先生の数は子供の数に対しても足りないんじありませんか。先生一人に対する生徒の数が多く、自然、家庭生活に比べ團体生活では精神的な安定、たのしみが欠けてるんですね。

十年前に養護施設の後援会を作り、その後発展して里親を年二回やるようになりましたが、そうしたことをする子供たちは喜び、とてもなついてくれるんですよ。



(桧前民生局長)

供が施設に入れられないで放置しておけば、ある期間には非行化する子供が相当でてくるのではないかと思うんですよ。

佐川 まだまだ町中には収容しき子供たちがたくさんいますね。合田 養護施設の絶対数は、足りないんでしようね。もちろん先生もですが。

局長 現在は、足りませんね。

里親家庭をふやそう

局長 しかしね、JCのみなさんが一日里親をやつて下さってるのだとくにお話したいのですが、もう歐米では、いまや養護施設より里親の時代なんですよ。

一九五八年に東京で第十回国際社会事業会というのがありましたが、その前に国際児童研究会があり、その時に米国の児童局長が「アメリカでは、そういう恵まれない子供を施設に入れるといふ考え方方は百年前にアヘッドした。子供はなるべく実家で育てるようになりたい。もしくはそれがダメなら自身の家庭に変わら家庭、つまり里親になるべき人にあづけるべきだ」といつてました。

現にアメリカ通りでは、施設に入ってる子供の倍くらいが、里親に入づけられます。

合田 その里親は、ながい間、つまり一生の里親ですか。

局長ええ、そうです。

去年、ローマで開かれた十一回国際社会事業会に出席した帰り神戸の姉妹都市シアトルに寄つて施設をみせてもらいましたが、あそこはワシントン州なんですが、同州では里親にあづけられる子供が圧倒的に多いですね。施設の子供は何分の二かですよ。

局長 养護施設は、ただ貧乏な子供や両親にめぐまれない子供などを、たゞ下宿させ、食べさせ、寝かすところだけじゃない。子供の不良化防止にとても役立つてると私はいうんですよ。

といいますのは、現在、神戸市内には養護施設に入ってる子供は約千三百人ですがもしそうした子

ワシントン州の人口は、二百五六十万と神戸の倍くらいですが、それでも児童福祉司が五〇人位であります。この問題については、ご存知でしょうかが神戸新聞社が大へん協力してくれます。月曜のグリーン頁にかなりのスペースをいただき「この子供に愛の手を」という表



(八馬氏)

題で児童相談所の一時保護所でどり扱つて子供の中から里親家庭にあづかつてもらつに適した子供の紹介をしていただいてます。

合田 その記事をみてあづかろうという方は出てきますか。局長 もうかなり続いてます。ほとんどのケースが片づいてます。



(合田氏)

めるというPRがゆきとどいてないんでしょうね。

経済的な負担はかけない里親制度

局長 神戸の里親家庭の場合、決して子なしとは限らないんですよ。

佐川 期間はどれ位ですか。局長 永久的というより、その子の親が自立できるまで暫く預かっているケースも多いです。

これまでの里親といえば、自分に子供がないので貰う。貰うなら恵くられない子供を——という自分位の動きと合わせて社会的善意からが多かったようですね。

これは里親の一例ですが、結婚と同時に五人の子供をあづかつた人がいます。その人は自分も戦争孤児である知人に引きとられ、大学まで出してもらつた青年ですが

結婚すれば「里親家庭」になります。その願いをもつてたのです。いまでは自分の子供さん一人と計六人の子供さんを育ててます。

この人の場合は、丁度、神戸市が、三人以上の里親に公費の他に加算してお金をさしあげる制度を作った時の第一号ガイ当者です。

(神戸オリエンタル
ホテルにて)

で里親手当六千円を支給しています。だから子供三人だと、公費一万二千円に市の支給三千円と里親手当六千円、合計二万一千円となり子供一人七千円ということになります。これだとそう窮屈ではないと思いますが……。少なくとも里親には経済的な負担はおかけしないということになっていてます。民

生局としては、できるだけ多くの子供が里親家庭でお世話していく。だきたいわけで、そのためにも皆さま方に協力していただければうれしいです。

一同できるだけの応援はしたいですね。



(佐川氏)

ね。こうしたことからも、日本で里親制度が伸びないのは、決して市民の中にそういう善意がないのではなくてね、むしろそういう気持ちを持ちながらそのきっかけがない——ということが実情じゃないでしょうか。

だから今後の児童福祉、とくに家庭に恵まれぬ子供の扱い方としては、里親家庭の開拓にうんと力を入れたい——と考えのです

合田 佐川さん、そういうお手伝いなら私たちJCでも出来るんじやないでしょうか。日本ではそれが欠けてると、他人のことは放つておいても自分の家庭だけは守りたいという習慣が強いから、もう一つ人のことまでは——という気持があるのでは……。

八馬 国民性の相異ということですね。それと社会的な関係をたか



神戸青年会議所
社会奉仕委員会

里親制度にあなたの愛の手を



☆お問合せは神戸市児童相談所内 TEL (4) 4256